

木田淳子*、奈良由美子*、藤田祥子、○守野美佐子、高野愛子、辰巳理恵子、野口知有**、藤本多賀子**

(*大阪教育大、**大阪教育大・院)

目的 日常の家庭生活に欠かせない家事労働が、子どもの共感性、個別性、セルフ・エスティームにどのような影響を及ぼすかを明らかにする。

方法 小5・中2・高2の児童・生徒を対象に、質問紙法に基づく調査を実施した。家事労働に関する調査項目は、子どもが家事を行う頻度、家事を通じての親子の関わり方、父親の家事の頻度、家事分担により子ども自身が得る満足感、役立ち感、自信についてである。これらの実態と子どもの共感性、個別性、セルフ・エスティームとの関連を、 χ^2 検定結果に基づき考察した。

結果 子どもの共感性に関しては、家事における主体性尊重の親の対応、子ども自身の家事分担頻度の高さや主体的家事分担、それに家事分担により得る満足感、役立ち感、自信が、家族間の親密な交流を生み、子ども自身の豊かな感情を育むのを助け、プラスに働いていた。子どもの個別性に関しては、家事における主体性尊重の親の対応や子ども自身の主体的家事分担、家事分担により得る満足感、役立ち感、自信が、子ども自身の安定した自己像を育むのを助け、プラスに働いていた。子どものセルフ・エスティームに関しては、子ども自身の主体的分担と家事分担により得る満足感、役立ち感、自信が、意味ある、価値ある存在である自己を子ども自身が確認するのにプラスに働いていることがわかった。